



郵便
報知新聞
第五百九十二号

親の子と思ひ見まゝ親が慕ふふかふ言を
謂ふは情合は愛せむとて去年七月
中旬の頃とか下総国松戸駅より渡舟場の
河岸に二匹の巨大組を絞むる言ふこと
烈いゆゑ近邑の里人往還の旅客等皆みな
集ひて何れも勝敗を決まらぬとて肩頭を
伸べて見物せしる兩大頑強勢とて獅子
子奮の争ひるる何地より足の踏むる然
と走せ来り一大の脊を飛上ると均しく耳頭を
痛く噛付たり強と弱も不意と打れ疼と透
き此對等の犬の走掛て噛倒せしむとて母
猫犬の為み喰殺さむと俱て天の戴りたるの
復讐と思ひ必死と極めて加勢せし報恩
と心れざる畜類み於てあや

花々奔々誌



南栗町十四番地
月岡米次郎再
小舟町三丁目
土番地熊谷庄七

大橋
社
牙
彦

